



佐々木 英徳 議員



障がい者支援策について

問 視覚障がい者の多くの方は、主に音声や拡大文字によって情報を得ている。印刷物に音声コードを付けることで、視覚障がいのある方や小さい文字が見えづらい高齢者、日本語が読めない外国人の方にも音声で聞いて情報を伝えられる。音声コードの実施に向けての課題と所見を伺う。

答（福祉部長） 課題の一点目は

※SPコード…活字文書読み上げ装置で読む音声コード ※ユニボイスコード…携帯電話やスマートフォン・タブレット端末に対応した音声コード

音声コードの規格である。SPコード(※)とユニボイスコード(※)の二種類あるが、互換性がなく、それぞれに対応が必要となる。二点目は、利用率の低さである。SPコードは専用の機器が必要であり、ユニボイスコードはスマートフォンやタブレットを使用しなければならない。音声コードは、防災など重要な要素を含んでおり、関係機関と協力し、積極的な普及に努めたい。



奨学金返還支援制度について

問 奨学金返還支援制度は、奨

学金の返済に苦しんでいる若者の負担を軽減し、地方創生の観点から地域の担い手となる人材の確保や、若い世代の定住を目指すことができる。奨学金返還支援制度の導入に向けての課題と所見を伺う。

答（企画政策部長） 導入に向け、支援の対象要件を地域の実情に応じて検証する必要がある。要件を厳しくすると申請者が少なくなってしまうが、奨学金の返還に苦慮している方が多くいることも事実である。先進事例などを参考にしながら、導入に向けて研究、検証を行う。

答（産業部長） 企業の登録状況を踏まえ、制度の地元企業への周知を図り、労働力、雇用の確保に努めたい。



鶴見 久美子 議員



子どもの貧困について

問 子どもの貧困やひとり親世帯の貧困が進む中、学習の場の提供と子ども食堂などの居場所づくりにも積極的な関わりが必要である。子どもの貧困に対しての捉え方、日々の学習の習慣付けと生活の習慣付けについて、市の現状と今後の取り組み、課題について伺う。

答（福祉部長） 子どもの貧困に必要な支援は相談窓口、居場所

の充実と捉えコーディネーターを設置し相談体制を整備した。学習・生活習慣は、市の実情に合った支援の在り方を検討する。今後は、困窮世帯に食料品等を宅配する団体等の支援、官民協働の取り組みを充実させる。課題は学習生活支援等のNPO法人の活用で、調査を進めていく。

産業技術専門学院跡地について

問 産業技術専門学院（以下、産技専という）は、県立三和職業訓練所として、多くの卒業生を輩出してきた。現在は市の管理となり、跡地活用の検討をしている。跡地としての位置付けと今までの経過、今後の方向性と計画、また周辺の安全対策と市道の改善について伺う。

答（企画政策部長） 産技専跡地は、諸川周辺都市機能誘導区域になっている。平成29年3月に県から譲渡を受け、官民連携の事業化のため調査を実施した。民間企業の提案や意見を参考に活用方針案をまとめていく。

答（都市建設部長） 安全な道路環境のため西側、南側の一部に自転車・歩行者道路を整備した。

答（教育部長） 通学路安全推進会議で、危険箇所の対策を協議、学校安全ボランティアが登下校の見守り活動を行っている。



産業技術専門学院跡地